

資料 2

「神奈川県営水道事業経営計画」の点検について

神奈川県営水道懇話会資料

1 趣旨

県営水道では、お客さまの快適な生活と社会経済活動を支える災害に強いライフラインとして、安全で良質な水の安定的な供給を将来的に持続していくため、平成 26 年 3 月に「神奈川県営水道事業経営計画」(以下「経営計画」という。)を改定し、平成 30 年度までの具体的な取組と目標を明確にして、事業運営に取り組んでいる。

しかしながら、経営計画の策定以降、財政収支計画で見込んだ水道料金収入が確保できない状況が続き、また、県営水道の給水区域内で想定される最大地震動の引き上げや、火山噴火対策の必要性の高まり、全国的な漏水事故の多発など、経営環境に変化が生じている。

そこで、計画期間の中間年となる平成 28 年度において、経営計画の点検を行い、経営環境の変化を踏まえたうえで、経営計画に掲げたこれまでの主要事業の進捗状況を確認するとともに、最終年度となる平成 30 年度まで着実に事業運営ができ、目標達成ができるのか見通すため、経営計画を点検する。

併せて、経営計画の後半以降の事業運営にあたって、影響が想定される新たな課題の抽出やその対応の方向性についても整理する。

2 点検の視点

(1)主要事業の着実な実施

経営計画は、県営水道の将来のあるべき姿を展望しつつ、平成 30 年度までの具体的な取組と目標を明確にしており、数値目標を定めて、計画的な施設更新に取り組んでいる主要事業について、現時点での進捗状況を明らかにするとともに、目標達成の見込みについても検証する必要がある。

(2)経営環境の変化と新たな課題への対応

経営計画策定以降における経営環境の変化に伴い、新たな課題が発生しており、適時、的確に対応していかなければならず、今後の事業運営や財政収支計画への影響を把握し、対応の方向性を整理する必要がある

(3)財政収支計画の検証

現在の収入水準の下、最終年度まで、経営計画に定める主要事業の着実な推進と確実な事業運営を図ることとしており、新たな課題への対応も含めて、収支両面にわたって、財政収支計画を検証する必要がある。

3 点検の内容

(1)主要事業の進捗状況と見込み

経営計画に掲げた、耐震化や老朽管更新などの主要事業について、平成 27 年度決算や 28 年度予算に基づき、これまでの進捗状況について確認する。

また、数値目標は、最終年度の平成 30 年度における進捗予定をあわせて検証し、経営計画における数値目標が達成できるのか確認する。

なお、数値目標がない主要事業についても、取組状況の点検を行い、経営計画全般の点検を行う。

(2) 課題の抽出

ご意見をいただきたい点

計画策定当初に位置づけていなかった事項や、計画後半以降に向けて、新たに対応すべき事項等、今後の事業運営にあたって課題となる事項を抽出し、その対応の方向性を整理する。

【例】

「神奈川県地震被害想定」の見直しに伴う給水区域内の地震動変更への対応
箱根山及び富士山の噴火を想定した新たな対策への対応
大規模漏水の発生を受けた管路の維持管理強化と長寿命化対策
インドに加えて、ベトナムとの間での国際協力事業のさらなる推進
公民連携によるスマートメーター共同研究の実施

(3) 財政収支計画の現況と見込み

財政収支計画について、平成 27 年度までの決算額と平成 28 年度予算を反映させ、現在の財政状況を確認する。

また、今後、主要事業の目標達成や新たな課題への対応に必要な財源が、現在の収入水準により確保できるのか、水道料金収入の減少傾向や新たな支出減の要素を踏まえ、検証を行う。

4 点検の実施方法

経営計画の点検は、「県営水道経営改革会議」や「経営分析部会」において、庁内で検討するとともに、「神奈川県営水道懇話会」における外部有識者との協議も通じて行うこととする。

5 スケジュール

- ・ 5月 前年度決算見込に基づいて庁内作業を開始
- ・ 2月 点検結果のとりまとめ、議会報告
- ・ 4月 ホームページ等による公表

ご意見をいただきたい点

今後、上記【例】にある課題への対応方法を検討することになるが、それぞれの課題について、どのような視点からの検討が必要となるか、ご意見をいただきたい。

これらの他に、どのような課題を検討すべきか、ご意見をいただきたい。

(参考)

現在の経営計画における主要事業

★ 数値目標を設定し、進捗状況を公表しているもの

施策の方向性	主要事業	構成事業
1 より安全で良質な水づくり	(1) 水質監視体制の整備	水質検査機器等整備事業 水質管理センター(仮称)の設置
	(2) 残留塩素濃度の低減化・平準化	残留塩素濃度の低減化・平準化事業
	(3) 鉛製給水管の解消 ★	鉛管解消事業
	(4) 貯水槽水道の適正管理の推進	貯水槽水道適正管理推進事業
2 災害や事故に備えた強靱な水道づくり ★	(1) 浄水場や配水池等の耐震化	基幹浄水場耐震化事業 ★ 一次配水池等耐震化事業
	(2) 管路の耐震化 ★	★ 重要給水施設配水管耐震化事業
		★ 基幹管路耐震化事業
		大口径老朽管リフレッシュ事業【再掲】 老朽配水管リフレッシュ事業【再掲】
	(3) 配水運用及びデータ通信回線設備の更新	配水運用システム更新事業
	(4) 危機管理体制の強化	非常用発電設備整備事業
		応急給水体制整備促進事業
ポンプ所等のセキュリティの強化		
3 お客さまから信頼される事業運営	(1) お客さまサービスの向上	上下水道料金管理システム改善事業等
	(2) 情報提供の拡大や広報の強化	広報・広聴事業
	(3) 新たな会計基準への対応と経営の明確化	新たな会計基準への対応と経営の明確化
	(4) 環境に配慮した取組	省エネルギー化推進事業
4 安定した水の供給体制の確保	(1) 老朽管の更新 ★	老朽配水管リフレッシュ事業
	(2) 大口径老朽管の更新 ★	大口径老朽管リフレッシュ事業
	(3) 老朽設備の更新	老朽設備更新事業
		寒川浄水場排水処理施設運営事業
		谷ヶ原浄水場排水処理施設更新事業
		原水・浄水設備維持運営事業
	(4) 配水池等の統廃合 ★	配水池等統廃合事業
	(5) 漏水の防止対策	老朽給水管解消事業
送配水管弁栓類等点検調査事業		
(6) 配水管網の再構築	配水管網再構築事業	
5 健全経営の堅持と経営基盤の強化	(1) 広域・連携の推進と民間活力の活用	効率的な事業運営の徹底
	(2) 財務体質の強化	借入金残高の減少
	(3) 収入の確保	収入の確保
	(4) 水道料金体系のあり方の検討	水道料金体系のあり方の検討
	(5) ICTの推進	ICTの推進
	(6) 人材育成と組織力の強化	人材育成と技術の継承

「水道事業経営計画」における主要事業の進捗状況について

〔H25年度決算、H26年度決算、H27年度決算、H28年度予算の数値による〕

1 段目：H25 末の率	2 段目：H26 末の率
3 段目：H27 末の率	4 段目：H28 末（予算）の率

項目	主な構成事業								
主要事業 1 より安全 で良質な 水づくり	<p>1 - (3) 鉛管解消事業</p> <p>《目標》お客様の不安感を払拭するとともに、漏水の発生を抑制するため、県営水道が所有する公道内に残存する鉛製給水管（効率的な解消が難しい県道内の一部を除く）を、平成27年度までに解消する。</p> <table border="1"> <tr> <td>H25 末の鉛管解消率</td> <td>82.6%</td> </tr> <tr> <td>H26 末の鉛管解消率</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td>H27 末の鉛管解消率</td> <td>99.4%</td> </tr> </table>	H25 末の鉛管解消率	82.6%	H26 末の鉛管解消率	96.2%	H27 末の鉛管解消率	99.4%		
H25 末の鉛管解消率	82.6%								
H26 末の鉛管解消率	96.2%								
H27 末の鉛管解消率	99.4%								
主要事業 2 災害や事故に備えた 強靱な 水道づくり	<p>2 - (1) 一次配水池等耐震化事業</p> <p>《目標》給水区域内で想定される最大規模の地震動に対応するため、平成30年度までに配水池の耐震化率を36%に向上させる。</p> <table border="1"> <tr> <td>H25 末の耐震化率</td> <td>17.7%</td> </tr> <tr> <td>H26 末の耐震化率</td> <td>20.2%</td> </tr> <tr> <td>H27 末の耐震化率</td> <td>20.2%</td> </tr> <tr> <td>H28 末（予算）の耐震化率</td> <td>20.2%</td> </tr> </table>	H25 末の耐震化率	17.7%	H26 末の耐震化率	20.2%	H27 末の耐震化率	20.2%	H28 末（予算）の耐震化率	20.2%
	H25 末の耐震化率	17.7%							
	H26 末の耐震化率	20.2%							
H27 末の耐震化率	20.2%								
H28 末（予算）の耐震化率	20.2%								
<p>2 - (2) 管路の耐震化</p> <p>《目標》給水区域全域において、管路の長寿命化を図りながら、同時に耐震化を推進することとし、平成30年度までに全管路の耐震化率を20%に向上させる。</p> <table border="1"> <tr> <td>H25 末の耐震化率</td> <td>17.1%</td> </tr> <tr> <td>H26 末の耐震化率</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>H27 末の耐震化率</td> <td>18.5%</td> </tr> <tr> <td>H28 末（予算）の耐震化率</td> <td>19.0%</td> </tr> </table>	H25 末の耐震化率	17.1%	H26 末の耐震化率	17.8%	H27 末の耐震化率	18.5%	H28 末（予算）の耐震化率	19.0%	
H25 末の耐震化率	17.1%								
H26 末の耐震化率	17.8%								
H27 末の耐震化率	18.5%								
H28 末（予算）の耐震化率	19.0%								
	<p>2 - (2) 重要給水施設配水管耐震化事業</p> <p>《目標》災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う、神奈川県が指定する災害拠点病院9箇所につながる供給管路の耐震化を平成30年度までに完了させる。</p> <table border="1"> <tr> <td>H25 末の供給管路の耐震化率</td> <td>47.5%</td> </tr> <tr> <td>H26 末の供給管路の耐震化率</td> <td>63.3%</td> </tr> <tr> <td>H27 末の供給管路の耐震化率</td> <td>73.3%</td> </tr> <tr> <td>H28 末（予算）の供給管路の耐震化率</td> <td>86.9%</td> </tr> </table>	H25 末の供給管路の耐震化率	47.5%	H26 末の供給管路の耐震化率	63.3%	H27 末の供給管路の耐震化率	73.3%	H28 末（予算）の供給管路の耐震化率	86.9%
H25 末の供給管路の耐震化率	47.5%								
H26 末の供給管路の耐震化率	63.3%								
H27 末の供給管路の耐震化率	73.3%								
H28 末（予算）の供給管路の耐震化率	86.9%								

	項 目	主 な 構 成 事 業																								
主要事業 2		<p data-bbox="475 248 954 286">2 - (2) 基幹管路耐震化事業</p> <p data-bbox="507 309 1410 376">《目標》配水系統全体に影響のある基幹管路（大口径管）のうち耐震性の劣る管の解消を図り、<u>平成30年度までに耐震適合率を69%に向上させる。</u></p> <table data-bbox="555 421 1262 577"> <tr> <td>H25末の基幹管路耐震適合率</td> <td>66.4%</td> </tr> <tr> <td>H26末の基幹管路耐震適合率</td> <td>66.6%</td> </tr> <tr> <td>H27末の基幹管路耐震適合率</td> <td>66.9%</td> </tr> <tr> <td>H28末（予算）の基幹管路耐震適合率</td> <td>67.4%</td> </tr> </table>	H25末の基幹管路耐震適合率	66.4%	H26末の基幹管路耐震適合率	66.6%	H27末の基幹管路耐震適合率	66.9%	H28末（予算）の基幹管路耐震適合率	67.4%																
H25末の基幹管路耐震適合率	66.4%																									
H26末の基幹管路耐震適合率	66.6%																									
H27末の基幹管路耐震適合率	66.9%																									
H28末（予算）の基幹管路耐震適合率	67.4%																									
主要事業 4	<div data-bbox="268 920 437 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 安定した 水の供給 体制の確 保 </div>	<p data-bbox="475 636 1038 674">4 - (1) 老朽配水管リフレッシュ事業</p> <p data-bbox="507 696 1410 786">《目標》水質への影響や漏水発生の抑制を図るため、管路の長寿命化を図りながら、<u>平成30年度までに全管路に占める老朽管の割合を15%に減少させる。</u></p> <table data-bbox="555 831 1177 987"> <tr> <td>H25末の老朽管割合</td> <td>17.2%</td> </tr> <tr> <td>H26末の老朽管割合</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>H27末の老朽管割合</td> <td>16.1%</td> </tr> <tr> <td>H28末（予算）の老朽管割合</td> <td>15.4%</td> </tr> </table> <p data-bbox="475 1043 1066 1081">4 - (2) 大口径老朽管リフレッシュ事業</p> <p data-bbox="507 1104 1410 1171">《目標》安定供給への影響が大きい老朽化した基幹管路を優先して更新し、<u>平成30年度までに基幹管路の老朽管残存率を28%に減少させる。</u></p> <table data-bbox="555 1216 1177 1373"> <tr> <td>H25末の残存率</td> <td>30.7%</td> </tr> <tr> <td>H26末の残存率</td> <td>30.5%</td> </tr> <tr> <td>H27末の残存率</td> <td>30.3%</td> </tr> <tr> <td>H28末（予算）の残存率</td> <td>28.7%</td> </tr> </table> <p data-bbox="475 1417 927 1456">4 - (4) 配水池等統廃合事業</p> <p data-bbox="507 1478 1410 1545">《目標》今後の水需要に応じた施設規模のダウンサイジングや統廃合を併せて実施し、<u>平成30年度までに配水池の数を113箇所にする。</u></p> <table data-bbox="555 1568 1177 1702"> <tr> <td>H25末の配水池数</td> <td>136箇所</td> </tr> <tr> <td>H26末の配水池数</td> <td>116箇所</td> </tr> <tr> <td>H27末の配水池数</td> <td>115箇所</td> </tr> <tr> <td>H28末（予算）の配水池数</td> <td>115箇所</td> </tr> </table>	H25末の老朽管割合	17.2%	H26末の老朽管割合	16.7%	H27末の老朽管割合	16.1%	H28末（予算）の老朽管割合	15.4%	H25末の残存率	30.7%	H26末の残存率	30.5%	H27末の残存率	30.3%	H28末（予算）の残存率	28.7%	H25末の配水池数	136箇所	H26末の配水池数	116箇所	H27末の配水池数	115箇所	H28末（予算）の配水池数	115箇所
H25末の老朽管割合	17.2%																									
H26末の老朽管割合	16.7%																									
H27末の老朽管割合	16.1%																									
H28末（予算）の老朽管割合	15.4%																									
H25末の残存率	30.7%																									
H26末の残存率	30.5%																									
H27末の残存率	30.3%																									
H28末（予算）の残存率	28.7%																									
H25末の配水池数	136箇所																									
H26末の配水池数	116箇所																									
H27末の配水池数	115箇所																									
H28末（予算）の配水池数	115箇所																									